

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 04 08	中期総合計画主要施策番号		2-03		担当課	部・課	農政部園芸畜産課	
事業名		肉用子牛生産安定特別対策事業				内線		3180		
						E-mail		enchiku@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	国内肉用子牛生産者に対して、一定水準の所得を保証することによって、肉用子牛生産農家の健全な経営を図り、国産牛肉の供給を確保する。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・肉用子牛価格は黒毛和種では穏やかな落ち込みであるが、乳用種及び交雑種の価格は不安定で、安定した所得の確保が難しい。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・子牛価格の低下により収入の確保が難しくなっている。 ・飼料価格等の高騰によるコストアップにより利益の確保が難しくなっている。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 国内肉用子牛生産者に対して、一定水準の所得を保証することによって、肉用子牛の供給を確保する。								
		肉用子牛生産者積立金助成事業 価格差補てん金の原資となる基金(生産者積立金)の造成に対する県負担分【国】1/2,【県】1/4,【生産者】1/4 肉用子牛生産者補給金制度の指定協会に対する業務の助言、指導								
		実施期間	H17 ~ H21		根拠法令等	長野県食と農業農村振興計画、肉用子牛生産安定等特別措置法第6条				
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
肉用種子取り用雌牛の飼養頭数増により、肉用子牛の供給の確保を図る。		子取り用雌牛の増頭を図ること。子牛を登録する契約者の増加を図ること。			平成20年の子取り用雌牛の飼養頭数は前年の102%、契約者数は前年の102%増となった。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	11,532	11,977	12,600	国庫・県単		国庫・県単	
	決 算 額 (B)		千円	11,532	11,977		実施方法		直接、補助	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	10,432	10,877	11,500	歳出節別内訳等		・旅費:112 ・需用費:702 ・役務費:286 ・補助金:10,877	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.25	0.25	0.25	(単位:千円)			
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	13,317	13,764	14,387				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	子取り用雌牛頭数		頭	3,600	3,680	3,750	・平成20年度は平成19年度に引き続いて肉用子牛の価格低下がみられたため、平成19年度の乳用種に加えて、交雑種にも補てん金が交付された。			
	契約者数		人	520	531	536				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・県は県負担分積立金の助成及び事業実施主体である社団法人長野県畜産物価格安定基金協会への助言指導の最低限の事務を行っており、当面関与を見直す余地はない。 ・法律で定められた条件が全国同一の制度であるため、有効性、効率性を当面見直す余地はない。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		国内肉用牛生産基盤の維持拡大を進めるため、登録頭数の確保を図る。							